

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人としての理念「人権の尊重」を踏まえグループホーム独自の理念「人としての尊厳・人格が尊重され、社会的な関係を保ちながら、その人らしい生活を続けていただく」とし、年度ごとに具体的な目標を掲げています。20年度は、「近隣、地域との交流の機会確保」「利用者ごとの希望外出の確保」です。	研修や会議を通して職員に理念の理解を深める機会を確保している。今後も継続して行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念実現のため管理者や職員は、理念や方針をグループホーム内に掲示し、毎朝の引継ぎ時に唱和しています。目標を達成するため、業務改善の提案を各職員から随時受けて行っています。	○ 管理者は、19年度に認知症キャラバンメイトとしてボランティア団体とご家族を対象にした認知症サポーター研修を開催する。今後も地域からの要請があれば研修の開催やグループホームの紹介をしていきたい。認知症やグループホーム啓発活動の一つの方法として利用者の作品紹介を法人内の事業所や特養の地域交流行事の際実施しています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議のたびに理念や方針、目標の達成度について報告しています。その結果19年度には、地域行事への参加回数も増加し、地域に向けてグループホームについてご紹介する機会も増えました。また、ご家族も目標の趣旨の理解が深まり、行事や外出への協力が増えました。	○ 利用者の自己実現や認知症への理解を深めるため作品展示を地域に向けて行いたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	8年前のグループホーム敬愛開設当時から散歩や買物、中庭の手入れの際、自然に挨拶を交わしている。うさぎや庭の草花を通し交流があります。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加は、18年度1回から始まり19年度には、運営推進会議の構成員・小学校校区民生委員長の提案で、同じ校区の民生委員全員が、当ホームを見学されたことをはじめとして合計5回の交流が持てた。また、民生委員の要請で小学生の下校時の見守りを継続して利用者が実施し、利用者と小学生の交流は深まっているようです。	○	地域の住民の理解が深まり、利用者や職員に無理のない状況で地域交流を進めたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は、認知症キャラバンメイトに登録し、地域に向けて認知症サポーター研修をはじめました。また、地域より一時的な車椅子貸し出しの相談がある。実際には、貸し出しは、ありませんでしたが、事業所として何ができるか話し合ういい機会をもてた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解しています。職員に対して研修を実施し、自己評価も各自記入した後、職員全員で自己評価に取り組んでいます。外部評価で受けた提案・助言は、運営者や職員間で検討し是正しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の行事参加状況をはじめ事業の運営状況を詳しく報告しています。運営会議の出席によりご家族のグループホームや認知症、他利用者への理解が深まりました。他に、議題として後期高齢者医療制度などを取り入れご家族の不安をすこしでも解消できるよう工夫しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市や地域包括支援センター主催の研修や地域交流会へ参加し交流や連携を深め、共にサービスの質の向上に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、グループホームに配属した際、初任者研修にて認知症研修を必ず履修することになっています。その研修内に地域権利擁護事業や成年後見制度について含まれています。現在入居中の利用者に制度の必要性は低いですが、機会あるごとに制度について説明しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の虐待防止セミナーへの参加や事業所内研修に毎年人権研修として高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を確保し、施設内虐待の防止に努めています。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、十分な時間を取り理解・納得が得られるように努めています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画書の更新時、ご家族の面会時、運営推進会議の開催時機会あるごとに利用者、ご家族から本人やご家族の意向を聴き取る努力をしています。また、ご家族の了解を得て、利用者の日記を確認し本人の心情を把握し、利用者の思いを大切にしたいケアができるようにしています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する『えがお通信』にて外出状況、生活活動の内容の詳細をお知らせしています。また、必要に応じて面会時、運営会議時、行事、電話連絡にて報告をしています。昨年の外部評価時、個人金銭出納帳について、家族の確認に押印をいただいていたのですが、あわせてご家族の署名も必要との助言を頂きました。評価結果を頂いた後、速やかに金銭授受がある際は、必ず署名・押印を頂くよう是正いたしました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、サービス計画書の更新の際ご家族等から要望や不安な点を聴き出すよう努力しています。「ご意見箱」の設置や「苦情担当者」「苦情連絡先」を掲示してご意見や苦情を出しやすい工夫をしています。利用者の希望の外出先や外出目標を利用者に選択していただく取り組みをしていますが、ご家族に最終的に報告しご家族の意見が行事に反映できるよう配慮しています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、年1回の「自己報告書」にて職員の事業所や法人に対する意見や配置転換の希望を調査し、本人の希望に添うようにしています。管理者は、定例会、毎朝の引継ぎ、年2回の個人面談にて職員の意見を聴く機会を設けています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院の介助などできるだけご家族の希望に対応できるようにしています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の訪問調査以来職員の異動や退職は、ありませんでした。法人内の異動や退職がある場合、認知症の支援経験のある人など、利用者のダメージを防ぐ配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成する研修計画を毎年たて計画的に研修を受ける機会を確保しています。事業所内研修は、管理者が主体と成るものがほとんどでしたが、19年度からは、それぞれの職員が研修の担当を務める事ができました。20年度は、同じ方針のもと研修内容を深め職員のスキルアップに努める予定です。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との連携の必要性を認識し、管理者や職員を地域の同業者連絡会や研修会への参加を支援しています。また、希望する待機者に対し近隣のグループホームの空き情報を提供することもあります。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員との定期的な面談や報告書の提出を行い職員の悩みや不満などを表出しやすい環境づくりに取り組んでいます。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得者への資格手当てや、永年勤続者への表彰など各自が、向上心を持ち働けるよう努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時必ず管理者がご家族に面談し、時間の許すかぎり重要事項の説明をし、十分な納得を得た上で利用申し込みをしていただきます。利用前には、専用のフェイスシート利用者やご家族の希望を聴く努力をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みから利用に至るまで待機期間が長くなることが多い。必要な時いつでも管理者が相談を受ける旨、初回の相談時に説明している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用は、すべての人に適切なケアでないことを認識し、相談者の必要度が高いサービスや医療機関の紹介や待機期間が長いことを説明し急がれている場合は、近隣のグループホームの空き情報の提供などを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの利用は、本人の納得と受容が得られることが望ましく、ご家族に趣旨を説明し待機者の訪問を奨励しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、それぞれの得意なことや希望することなど生活の中で役割を持ち、生き生きと毎日を過ごしています。職員と利用者は、お互い協力し合い良好な関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、運営推進会議や面会時等利用者本人の事や他利用者との関係を含め全てを包み隠さずお知らせし、ご家族も本人や他利用者の理解を深め、支援して頂ける様関係を築いている。行事への参加率もあがっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族等の面会時等を利用して本人と家族との関係について情報を収集し、本人や家族間の良好な関係作りを支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や人のいる場所への外出支援や電話や手紙などの利用支援が、利用者にとって安心と安らぎをもたらすことを理解し、支援をおこなっています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の人間関係を常に把握できるよう情報を収集し、利用者皆さんが快適な生活ができるように配慮してそれぞれを認め合い、尊重できるように支援してます。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も必要な時は、家族の相談に応じています。また、行事等で利用者に会う機会を持つようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	20年度の利用者ごとの外出の目標を本人と話し合って決めたり、サービス計画ごとに利用者やご家族に希望や意向の確認を必ず行います。今年から創めた希望外出では、コミュニケーションに支障のある人にも選ぶことができるよう絵を示したり工夫をしています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャー、サービス提供者等からの情報収集を機会あるごとにおこなっています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者ごとの状況を把握するため、記録や記載方法、ファイリングの工夫を常におこなっています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は、毎月1度や必要時のケアカンファレンスや毎日の引継ぎの際本人に適切なケアについて常に話し合っています。サービス計画には、そのような職員や家族の意見を反映できるように工夫しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の決められた期間内の見直しや必要な際、速やかなサービス計画の変更をおこなっています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性は、認識しており研修をもち職員の記録の標準化に努めています。また、記録を活かせるようにケアカンファレンスや医師への情報提供の際、個別記録から事実を拾い出し、客観的事実と気づきとを区別し報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通常の通院介助は、ご家族が対応されるが、希望があれば調整しできるだけご家族の希望に添えるように努力している。また、必要に応じて同法人の特養の言語聴覚士や理学療法士・作業療法士などの助言を得ています。19年度には、早期退院のため特養でリハビリを実施いたしました。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らせるよう親交のある民生委員やボランティアとの交流の支援をおこなっています。また、公共の図書館の利用も定期的におこなっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向や必要性がないため地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが主催する地域連絡会やセミナーへの参加など協働に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望されるかかりつけ医となっています。原則家族が通院対応することになっていますが、状況により事業所がおこなったり、往診の対応をおこなっています。利用者により主治医は、異なっており複数の医療機関と関係を密に保っています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の主治医に認知症専門医がおられ、助言をえている。また、専門医への受診が必要な場合は、主治医と相談して受診支援をおこなっています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人内の訪問看護ステーションと契約し、日常の健康管理や24時間相談助言ができる体制を整えています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期についての話し合いは、入居時におこなう。今年に入り利用者の一人が、急病で入院した際、改めてご家族に緊急時の対応の確認を取り主治医についても変更がないことを申し合わせた。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の高齢化に重度化が予測されるため今年度は、特に終末ケアについての研修を持つことにした。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージが最少に防げる工夫を家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っています。入所を希望される同法人内の特別養護老人ホームとの交流を支援する等おこなっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の尊厳やプライバシーが守られる工夫を記録を含め個人情報の取り扱いを定めて実行しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の中で自己決定ができる機会をたくさん持つよう職員は工夫して支援をしています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな生活のスケジュールは、決めているが利用者の希望や体調、気分にあわせてその人らしい暮らしを送れる様、他の利用者との関係も配慮して支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者ごとの身だしなみやおしゃれの好みを知りお化粧の支援や定期的な美容院の利用支援をおこなっています。また、理容・美容は、地域や本人の希望の店にいけるよう支援をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と季節に合った献立を一緒に考え、買い物や調理、片付けもそれぞれの利用者にかかわってもらっています。畑や庭で育てた作物が食卓に上ることもあります。もちろん、食事は、毎食利用者と職員は、同じテーブルを囲み、同じ物を食べています。 会話をしながら食事をしています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族や主治医との協議の上で利用者の嗜好を尊重したおやつ、おやつの買い物の支援や喫茶の利用をしています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握できるように記録をとり、アセスメントをおこなうことで利用者の排泄パターン・習慣に応じた排泄支援をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が日々楽しめるよう入浴の順番の工夫やバラ風呂をはじめ変り湯を提供することで、潤いや楽しみを感じられるよう支援しています。特に評判がいいのは、鮮やかな色の花と香りのいい入浴剤と一緒にした変り湯です。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調管理、精神状況に気を配り休息を含めた活動の支援をおこなっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握しそれに合う役割・仕事趣味活動を考え提供し、生活に張り合いや生きがい・楽しみが感じられるよう支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者がお金の扱いを継続することの大切さを理解しており、利用者の希望や力に応じて利用者自身の買い物や喫茶利用時にお金を扱えるよう支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援の大切さを職員一同が理解しており、今年度のサービスの品質目標に『利用者ごとの希望に応じた外出目標を設定し、外出の機会を確保する』をきめています。より利用者の希望に添える外出支援ができるよう具体的な方法を利用者ごとに定め、毎月目標が達成できるように取り組んでいます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の外出支援のほかに19年より希望外出や希望外食を開始しました。小人数で自分の選んだ外出先に出かけます。その際、ご家族も一緒に出かけてくださるよう声をかけています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしています。事実と違う内容の手紙をかかれる利用者については、ご家族と相談の上支障のない範囲で手紙のやり取りができるように協力しています。子供との電話についてもサービス計画に挙げています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう職員は、訪問しやすい雰囲気作りや湯茶を提供するなどしています。また、面会時間は、訪問しやすいよう特に制限していません。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任の職員には、初任者研修として必ず身体拘束についての研修をおこなうことにし、具体的な身体拘束の意味を理解し、ケアに反映できるようにしています。また、法人は、身体拘束をしないケアを方針にし実践しています。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、カギをかけないケアの実践をしているところですが、鍵の開いた玄関から利用者が出られ短時間ですが所在不明の事故が発生しました。是正処置として玄関に設置していなかったアクセスコードを他の場所から移設し、玄関に無断外出の危険性のある利用者が接近したらチャイムで反応するようにしました。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通し、定期的に利用者の安全確認ができるよう個別に時間を設定しています。特に夜間は、利用者ごとに巡回時間の設定や記録をおこなっています。巡回で睡眠に支障が出ないように、必要な利用者の居室(複数)のナースコールを夜間中『聴取』にして安全に配慮しています。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居中の利用者の状況に応じて、生活用品の保管場所や方法を工夫して、危険回避できる取り組みをしています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人内での事故情報や事業所内での事故から事故防止のための知識を学び、理解を深め、利用者一人ひとりの状況に応じて声かけや見守り、環境整備をしています。利用者が安全に過ごせる工夫をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に緊急対応の研修をもっている。今年度は初めて吸引機の実技指導を受けた。また、急変や事故発生があった場合、必要に応じた研修や話し合いをもっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策の手順書を作成しており、それに従い年2回の防災訓練を取り入れ実践しています。地域に対しては、消防署より配布されたポスターの掲示や運営推進会議での交流を通し協力への働きかけをおこなっています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個人的には、サービス計画書の更新時、ご家族の面会時、それぞれの利用者ごとのリスクについてお話している。また、運営推進会議の開催時、事故や急変の報告をします。同じ会議にて認知症の研修をご家族対象に実施し、認知症についての理解を深めて頂きました。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、日頃から利用者の状態を把握しており、体調の変化や異変時には、速やかに管理者や看護師、主治医、家族等に連絡、相談、対応できるようにしております。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用、用法や用量について理解できるよう薬情報を利用者ごとにファイルし見やすい工夫をしています。また、新規の薬については、情報を共有できるよう日誌や全体の服薬一覧表に記載して服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、利用者の水分量、食材・食事摂取量、運動量の把握に努め必要な支援をおこなっています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・液体歯磨き・義歯洗浄液などを使用して口腔内の清潔保持とともに病気予防に努めています。利用者のできる能力を把握して、適切な支援をしています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者に必要な食事量や栄養・水分量を管理栄養士や看護師の助言や情報を得ながら理解、知識を深めています。それらを元に利用者の必要度に応じて毎食ごとの食事量や水分量の把握、支援をおこなっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日頃から感染症予防のための手順書に定めて、実行しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手順書に従い、衛生管理を行っています。定期的な食材管理や冷蔵庫を含めた清掃・消毒を行っています。買い物時日付、産地などを確認し新鮮で安全な食材の使用と管理を行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみがもてるように玄関先にプランターを置き、植木やバラを植えている。表札も手作りのものをかけ、玄関の鍵もできるだけ開け、出入りしやすい工夫をしています。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、昼夜を通して適切な照明や日光への配慮、テレビの音量や会話等の音への配慮が必要なことを充分把握して、利用者の快適な生活を支えている。また、季節感を大切にしており、装飾や生け花など工夫しています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるリビングには、椅子やソファを配置している。また、居室廊下側にもソファを置いて気の合った利用者同士が語らい会えるようにしています。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族の協力の下でなじみのものや本人が親しみを覚えるものを置いたり飾ったりして工夫しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、常に換気をし、においや空気のだよみがないうに努めています。温度調節も利用者ごとの状況に応じてこまめに行っています。 また、乾燥する冬場などは、加湿器を設置しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況を把握し、それにあわせて廊下や浴室、トイレに手すりを設置しています。浴室は、安全に入浴できるようシャワーチェアを脱衣場にも置き事故予防に配慮しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者により空調設備や居室の照明への混乱がある場合、その情報を収集し混乱予防の対策を職員間で話し合い、統一した支援を提供することで、利用者のわかる力にあわせた支援の工夫をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭や玄関、外周りに植木を植え、プランター・ハンギング・畑などを設置して職員と利用者が、一緒に園芸を楽しむ工夫をしています。クリスマスには、イルミネーションを飾り、利用者の楽しみを工夫しています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の生きがい作りのため、個々の利用者にあった趣味活動・グループワークで作品作りに取り組んでいる。 地域に対しグループホーム敬愛の認知度を向上させるため、同法人の特別養護老人ホームの地域交流会(地域のボランティア団体による地域に開放したコンサート等)の際利用者の作品を展示したり、同法人の在宅の事業所(デイ、デイケア、ヘルパーステーション、居支)にも同じ作品を展示している。作品を通して地域の人との交流は、まだないが、在宅時の馴染みの職員や他サービス利用者と作品を通して交流が持てている。 また、作品について馴染みの職員から好評されることで作品作りへの意欲が湧き、生活を意欲的に過ごしていただける様になっている。